

プログラミング支援ツール NP4H-SWN バージョンアップについて

1. 対象機種

IEC61131-3 準拠プログラミング支援ツール SX-Programmer

形式	品名	最新バージョン	バージョンアップ時期
NP4H-SWN	Standard	V3.0.1.5	2010年4月

2. バージョンアップサービスの概要

ホームページからのバージョンアップサービスは、旧版の Standard をお持ちの方を対象として、アップグレード機能を用いて最新の Standard 使用環境を提供します。

ホームページからのダウンロードにより、最新の Standard を容易に取得できます。

SX-Programmer Standard V3.0.1.5 用アップデートファイル : StandardUpdateV3015.exe

3. 最新バージョン V3.0.1.5 の主な変更内容 (2010年4月)

(1) アップグレードの改善

Standard V2 からアップグレードする時、V2 システムを残したまま V3 システムを追加インストールできるように改善しました。

(2) V3.0.0.160 の不具合修正

以下の不具合を修正しました。

- ・ラダー編集機能にて、微分接点や微分コイルを単独でコピー&ペーストすると、インスタンス番号が重複して動作不良となる。
- ・モニタ機能にて、グローバルタイマの接点のモニタ表示値が動作と異なることがある。
- ・PLCからの読み出し機能にて、タイマデバイス[T]が標準メモリデバイス[M]に化けて読み出されることがある。
- ・MICREX-F プログラムのコンバート機能にて、タイマ命令 (0.1s タイムベース) のタイマ番号が正しくコンバートされない。
- ・シミュレーション機能にて、TBIT/SBIT/SHL/SHR/DT 命令を 32 ビットデータで使用すると正しく動作しない。
- ・シミュレーション機能にて、ダウンロード後にリセットするとシミュレータと通信できなくなることがある。

4. 主なバージョンアップ履歴

(1) V3.0.0.160 (2009年9月)

①操作性の革新的な改善

- ・直感的な操作、マニュアルレスで簡単操作
- ・多彩な命令入力方法をサポート
- ・キー操作のプログラミング簡素化
- ・PLC操作の集約 (パネル/ボタン操作化)

②エンジニアリング効率の向上

- ・充実した検索機能 (グローバル検索、クロスリファレンス、回路フィルタ)
- ・使用状況表示付きデバイスエディタ
- ・照合結果の詳細表示

③Windows Vista 対応

対応OSとして、Windows Vistaに対応しました。

(2) V2.3.5.1 (2008年5月)

①SPH2000 対応機能の拡張

SPH2000 の GSV インタフェースFB、ユーザでの汎用通信設定、PODとのパラレルインタフェース接続の各機能に対応しました。

②@E. Integrator 対応

③MICREX-Fコンバート エラーログ改善

ファイル読み込みからのMICREX-Fプログラムコンバート機能のエラーログに、変換元のプログラムの回路番号

を表示する機能を追加しました。

④V2.3.5.0の不具合修正

NP1PM-48CR (@E.Terminal) からシステム定義をアップロードすると、組み込みアプリケーションの I/O グループ設定がクリアされる不具合を修正しました。

(3)V2.3.4.0 (2007年11月)

①モニタ専用の Standard をインストール可能としました。

②SPH200 対応機能の拡張

SPH200 のシステムプロパティに、構成チェックの待ち時間モードを「構成一致待ち/指定時間待ち」から選択可能とする機能を追加しました。

③MICREX-F コンバート機能の改善

「タグのテキストファイル読込」機能で、MICREX-F プログラムコンバート時のアドレスビット反転設定に連動してアドレスを割り付けるように改善しました。

(4)V2.3.3.0 (2007年8月)

①S X制御ユーティリティの追加

「補助機能」メニューに「S X制御ユーティリティ」を追加しました。

②ボードコントローラ対応機能の拡張

- ・ボードコントローラのCPUパラメータに、高速入力コネクタへの信号の論理を立ち上がりエッジ/立ち下がりエッジから選択可能とする機能を追加しました。
- ・ボードコントローラのCPUパラメータの簡易CPUリンク機能に、リンク局番を外部から設定する機能を追加しました。
- ・ボードコントローラのカレンダー情報に曜日データとカレンダー書き込み要求を追加しました。

③故障診断機能の改良

SPH300の故障診断機能に、故障状態を自動解析して表示する「故障解析」機能を追加しました。

※「故障解析」機能を使用する場合、Microsoft 社製 [.NET Framework 2.0] のインストールが必要です。

「6. バージョンアップ方法」を参照ください。

(5)V2.3.2.0 (2007年5月)

①システム定義の機能追加

電源・ベースボードの名称変更、イーサネットモジュールのゲートウェイ設定、「電池異常検出」の名称変更、などの機能追加をしました。

②保護パスワードの拡張

プログラム保護のパスワードを8桁から20桁に拡張しました。

③イーサネット設定のアップロード

オンライン接続時、モジュールにダウンロードしてあるイーサネット設定ファイルのアップロード機能を実装しました。

④常時 ON/OFF A/B 接点の登録

編集モードの接点パレットに「常時 ON A 接点」、「常時 OFF A 接点」、「常時 ON B 接点」、「常時 OFF B 接点」を追加しました。

⑤ローカルデバイスのアドレス/タグ色指定

ローカルデバイスに割り当てられたデバイスの、アドレス/タグに色指定機能を追加しました。

⑥ダイアログの表示位置記憶

支援ツール起動中は、編集エディタ内で表示されるダイアログの表示位置を保持する機能を追加しました。

⑦セクション番号検索機能 (ダイレクトジャンプ)

「検索」メニューに、「セクション番号検索」機能を追加しました。

⑧印刷設定の改善

印刷機能に「デバイスクロスリファレンスの I/O 一括登録」機能と、「セクションページ数印刷」機能を追加しました。

⑨イニシャル起動の制限

PLC を起動する際の「イニシャル起動」の操作を不可能にする機能を追加しました。

⑩MICREX-F コンバート機能の改善

MICREX-F PLC Programmer からのカット&ペースト機能のアドレス割付機能を改善しました。

(6) V2.3.1.0 (2006年11月)

①変更回路のPLC転送機能改善

プログラムの挿入・インポート・貼付け機能を行っても、変更回路のPLC転送ができるように改善しました。

②ボードコントローラ オプションカード対応

(7) V2.3.0.0 (2006年10月)

①システム構成アップロード

オンライン接続時、システム構成情報(モジュール名称)を復元する機能を追加しました。

②データのテキストファイル出力

リソースフォルダ内に存在するデータファイル(保存機能で保存済みのデータファイル)を、ユーザが指定する任意フォルダにカンマ区切り(CSV形式)のテキストファイルとして出力する機能を追加しました。

③機種間カット&ペースト機能の改善

MICREX-Fからのカット&ペースト機能の改善を行いました。

④セクション命令のタグ対応

セクション命令にコメント(タグ)を設定できる機能を追加しました。

⑤初期値のテキストファイル出力/読込

初期値設定リスト機能で設定されたデバイスの初期値をカンマ区切りのテキストファイル(.CSV)に出力する機能と、その出力されたテキストファイルを読み込む機能を追加しました。

⑥初期値設定リストの入力切り替え

初期値設定リスト機能に初期値の入力方法(10 進入力/16 進入力)を切り替える機能を追加しました。

⑦デバイスクロスリファレンス印刷の改善

デバイスクロスリファレンス印刷でタグの同時印刷機能を追加しました。

⑧デバイスクロスリファレンス情報のテキスト出力

デバイスクロスリファレンス情報をカンマ区切りのテキストファイル(.CSV)に出力する機能を追加しました。

⑨不具合修正

SPH300(NP1PS-245R)にて、マルチCPU構成で使用した場合、オンライン接続やグローバルメモリのモニタが正しく動作しないことがある不具合を修正しました。

(8) V2.2.4.0 (2006年8月)

①サーボシステムFALDICALPHA5に対応しました。

②V2.2.3.0の不具合修正

SPH2000(NP1PM-48E/256E)にて、FTPアクセス機能が使用できない不具合を修正しました。

(9) V2.2.3.0 (2006年5月)

①配列/構造体定義のインポート

配列/構造体の定義情報を他のプロジェクトから読み出す機能を追加しました。

②パスワード機能の拡張

PLCオンライン操作の制限を設定する機能を追加しました。

本機能を使用してアクセス認証用パスワードを設定することにより、PLCへの操作をレベル1、レベル2、レベル3、の3段階で制限することが可能となります。また、アクセスレベルによる機能制限をすることもできます。

(10) V2.2.2.2 (2006年3月)

①不具合修正

リモートIOMスタモジュールを標準モードで使用している場合、スレーブモジュールの構成状態により、IOMメモリを正しくアクセスできないことがある不具合を対策しました。

(11) V2.2.2.1 (2006年1月)

①機種間カット&ペースト改善

MICREX-F、FLEX-PCシリーズからの機種間カット&ペースト機能の改善を行いました。

②命令追加

マスタコントロール、形変換の命令を追加しました。

③グローバルカウンタ/積算タイマ

全POUからグローバルにアクセス可能なカウンタデバイスと積算タイマデバイスを追加しました。

④ラダーエディタでの強制設定

ラダーエディタ上で強制設定を行う機能を追加しました。

- ⑤SPH300ファームウェア対応
 - ・ I O領域拡張機能 (V**64)
 - ・ 縮退立上げ時間短縮機能 (V**65)
 - ・ 強制設定状態継続運転 (V**65)

(12) V2.2.1.0 (2005年11月)

- ①配列・構造体の対応
ラダー言語、ST言語にて、配列・構造体に対応しました。
- ②システム定義ガイダンス機能の追加
ガイダンス機能を追加し、操作を簡素化しました。
- ③MICREX-F機種間カット&ペーストガイダンス機能の改良
MICREX-Fプログラムファイルを開くと同時にコンバート実行するように改良しました。
- ④ボードコントローラ対応
ボードコントローラに対応しました。

(13) V2.2.0.0 (2005年8月)

- ①グローバルタイマ
全POUからグローバルにアクセス可能なタイマデバイスを実現しました。
- ②命令検索
全POUを対象とした命令またはユーザファンクションブロック/ユーザファンクションの検索機能を追加しました。
- ③デバイス使用状況の改善
補助機能のデバイス使用状況機能に、ビットデバイスの使用状況表示の際、ワードおよびダブルワードの使用状況を表示するように改善しました。
- ④クロスリファレンス付ラダー印刷の改善
POU種別/POU番号と回路番号から構成されるクロスリファレンス情報の印刷効率向上を図りました。
- ⑤機種間カット&ペーストの改善
MICREX-F PLC Programmerのプログラムをクリップボード経由でStandardに貼り付ける機能において、貼り付け未対応となっている命令のうち、13命令を追加対応しました。
- ⑥システム定義 未実装操作の改良
1クリックでモジュールの実装/未実装を切り替えることが可能としました。
- ⑦SPH2000対応
新系列CPUモジュールSPH2000に対応しました。

(14) V2.1.1.0 (2005年6月)

- ①FBパラメータのアドレス任意設定
ユーザファンクションブロック/ユーザファンクションのパラメータ設定で、パラメータ番号の自動割付けを止め、ユーザが任意の番号を設定できるように変更しました。
- ②PODモニタ用ラダー情報出力
PODでラダーモニタを実施するための情報をファイルに出力する機能を追加しました。
- ③SX通信ミドルウェア用デバイス情報の出力
[補助]の[デバイス情報の出力]機能にSX通信ミドルウェア (NP4N-MDLW) 用の情報を出力する機能を追加しました。
- ④デバッグ機能(ブレークポイント、ステップ実行)のST言語対応
ST言語画面で、[ブレークポイントの設定]、[ステップ実行]の機能を追加しました。
- ⑤ST編集機能の改善
ST言語のプログラムで、登録済タグの検索表示機能、およびタグ入力によるアドレス検索入力機能を追加しました。
- ⑥ズーム機能の改善
ウィンドウを開いた状態(ファイルを開く、新規作成)の初期表示倍率100%固定に対し、表示倍率の自動計算、表示倍率の保存機能を追加しました。
- ⑦ダイアログの表示位置保持
ラダー言語エディタで[アドレス入力ダイアログ]または[パラメータ入力ダイアログ]を開くときの表示位置を保持する機能を追加しました。

⑧機種間カット&ペースト(MICREX-F)の改善

MICREX-F のプログラムからのカット&ペーストで、ファイル命令をユーザファンクションブロックの呼出し (USERFB) 命令の形に置き換えて貼り付けるように変更しました。

(15)V2.1.0.1 (2005年3月)

①FBD表現の追加

F B呼出し部をF B D(ブロック)形式で表現する機能を追加しました。

②パラメータ設定画面でのパラメータ名称の表示/設定の機能追加

パラメータ設定画面でパラメータ名称の表示と、任意の名称に設定できる機能を追加しました。

③編集機能の改良

折り返し回路、ガイダンス入力ダイアログ、パラメータ入力ダイアログ、F B呼出し部の展開/折りたたみ表示の切り替え等の改良を行いました。

④命令パレットのデフォルト共通タブ項目の見直し

インストール時(デフォルト設定)の命令パレットの共通タブに設定する項目を変更しました。

⑤データ変更

ラダー画面からデータ変更を行う機能を追加しました。

⑥SPB SXモード対応

小型PLC SPBのプログラミングに対応しました。

⑦オフラインでの故障診断機能

オフラインのプロジェクトを開いているときでも、故障診断機能を使用可能としました。

⑧RS-232Cポート番号10以上対応

RS-232Cのポート番号を、1から256までとしました。

⑨ST言語対応

ST言語でのプログラミングを可能としました。

⑩プロセッサリンクモジュール最大構成数拡張対応

プロセッサリンクモジュール(Pリンク、FL-netなど)の最大構成数を8台へ拡張しました。

⑪「CPU”0”なしシステム立上げ」の対応

システム定義のシステム動作定義設定に「CPU”0”なしシステム立上げ」設定を追加しました。

⑫「縮退保守禁止動作」および「故障状態表示マスク」の対応

システムプロパティのシステム縮退立上げ動作定義に「拡張設定」を追加しました。

5. 従来品との互換性

今回のバージョンアップによるプログラムの互換性は下表の通りです。

V3で作成したプログラムは専用ファイル形式になりますので、V2バージョンでは開けなくなります。

	V2バージョンで作成のプログラム	V3.0.1.5で作成のプログラム
NP4H-SWN 旧バージョン	○	△
NP4H-SWN V3.0.1.5	○	○

6. バージョンアップ方法

- (1)パソコンのハードディスクに任意のフォルダを作成します。
- (2)作成したフォルダにV3.0.1.5用アップデートファイル「StandardUpdateV3015.exe」をダウンロードし保存します。
- (3)ファイルをダブルクリックします。(アップデートファイルは自己解凍型圧縮ファイルです)
- (4)作成したフォルダ内にファイルが解凍されます。
- (5)解凍したファイルの「Setup.exe」をダブルクリックします。
- (6)インストーラの指示に従い、インストールを行います。
- (7)インストールが終わったらStandardを立上げ、「ヘルプ」メニューの「情報」にて、バージョンがV3.0.1.5になっていることを確認します。

7. バージョンアップする際の注意事項

- (1)本アップデートファイルはStandard:NP4H-SWNがインストールされているパソコンにインストールしてください。

- (2) 本アップデートファイルのサイズと実際にダウンロードしたファイルサイズが異なる場合は、インストールしないで破棄し、再度ダウンロードしてください。
- (3) 実行中のプログラム（Standard、メッセージマネージャ等）を終了してからインストールしてください。
- (4) インストール途中に何らかのエラーで処理が中断してしまった場合、再度インストールしてください。
再インストール時にエラーで中断される場合は、お手持ちの Standard のセットアップCDで旧版をインストール後、再度アップデートファイルをインストールしてください。

プログラミング支援ツールのバージョンアップは、『Fe library』のページからダウンロードできます。

Fe library ENTER